

注意号

マダニ・マムシ・ハチなど自然豊かな御調町では特に注意が必要です。どんな生き物でどのように処置するのか、予防するのか考えてみましょう。

★マムシって？

- ・生殖値は春から北海道から九州までと広く、春・秋特に7・9月に多くみられる。
- ・体長45～60cm 胴が太く尾が短い。
- ・頭部は三角で、背中に銭型の斑紋がある上顎の先端に2本の毒牙があり、その牙から毒が注入される。



●マムシに咬まれたら？

1. まずは安静にする。
2. 噛まれたところより少し心臓側で止血する。
 - ・止血帯は静脈が浮き上がる程度巻く。
 - ・指を咬まれたときは、指の根元をしっかりと握って毒を押し出す。
3. 毒を吸い出す。
4. 濡れたタオルなどで傷口を冷やす。
 - ・傷口を冷やすことは、痛みをやわらげ、毒の回りも遅くするのに役立つ。
5. 安静を保ったまま病院へ
 - ・応急処置をしたら一刻も早く病院へ。

★即死するような毒ではないが、放置すると危険なので6時間以内に病院を受診し、血清治療を受けましょう。

★ハチって？

- ・ハチはメスの尾端部にある毒針で刺します。
- ・働きハチはすべてメスなので、巣の周囲で活動している個体は刺すものと考えてよいです。



●ハチに刺されたら？

1. 患部を流水で冷やしながらかう。
 - ・ハチ毒は水に溶けやすいので、毒を薄めることができ、冷やすことで腫れと毒の回りを抑えられます。
2. 毒針が刺さったままの場合は、指ではつままず、ピンセットなどでそっと取り除きましょう。
3. 患部から毒を出す。
 - ・指で患部をつまみ、血と共に毒を絞り出します。
 - ・市販の「吸引器（リムーバー）」で吸うのもおすすめです。

ただし、口で吸い出すことはしないでください。



吸引器
(リムーバー)

4. 抗ヒスタミン系成分を含むステロイド系軟膏（市販の虫さされの薬）を塗り、保冷材等で患部を冷やす。

★ここまでの応急処置が終わったら、できるだけ早く病院や診療所で皮膚科の診察を受診しましょう。

ハチの毒は、15分ほどで刺された部分が腫れるなどの症状が出始めます。

特に、ハチに刺されて1回目の人よりも2回目の方が、よりひどい症状が出やすくなります。

最悪の場合、アナフィラキシーショック症状を起こして死に至ることもありますので、自分は大丈夫と思わず、早めに受診してください。

●マダニって？

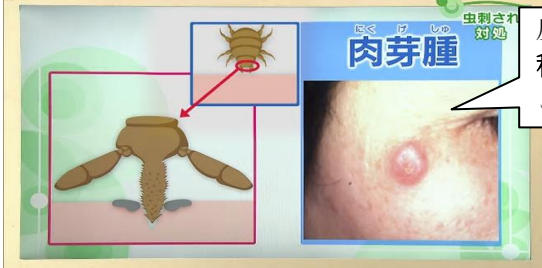
- ・固い外皮に覆われた比較的大型(吸血前で3~4mm)のマダニ。
- ・主に森林や草地などの屋外に生息しており、動物の血を吸って生きており飛びついて咬みつく。



▲昨年度御調で発見されたマダニ

●マダニに咬まれたら？

★触らずにそのままの状態皮膚科を受診して処置してもらう。



★マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい！

～7月14日の中国新聞にマダニについての記事がありました～

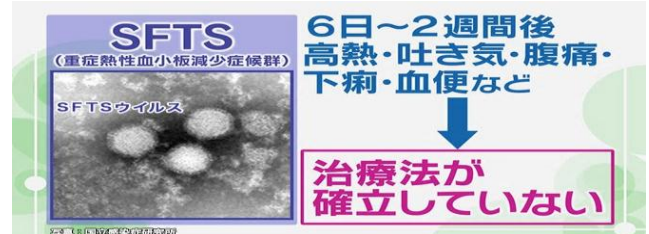
先月、広島県内で初、ネコの感染でマダニが媒介するウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を発症したと記事にのっていました。県は体調不良のネコとの接触は感染リスクがあるとして、獣医師会を通じて注意喚起をしています。今回起こった経緯は県内の30代の獣医師男性が6月8日、SFTSの感染が疑われるネコを治療し、体液に触れた。ネコは同9日に死亡、翌10日に感染が確認された。男性はその後、発熱や全身のだるさの症状が出たため検査をし、同25日にSFTSへの感染が判明した。マダニによる傷はないため、県感染症・疾病管理センターはネコが感染源と判断している。「動物にかまれたりした場合はしっかりと手を洗い、体調不良になった場合は医師に相談してほしい。」と県感染症・疾病管理センターは呼び掛けているそうです。

※重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

・感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染していますが、感染患者の血液、体液との接触感染も報告されています。また、インフルエンザなどのように容易に人から人へ感染して広がるものではないとされています。

・症状



●ハチ・マムシ・マダニから身を守る方法は

1. 服装や持ち物は明るい色のものを選ぶ。
 - ・ハチは黒っぽいものに反応して襲う習性があるため、服やバックなどはできるだけ明るい色にしましょう。明るい色だとマダニやムカデなどの虫が付着しているのをみつけやすくなります。
2. 皮膚の露出を少なくする。
 - ・長袖・長ズボンにし、帽子・手袋を着用、首にはタオルを巻くなど、できるだけ皮膚の露出を少なくすることが虫刺され予防に効果的です。
 - 万が一、ハチに刺された場合でも針が皮膚に届かずに済むことがあります。
3. 香水や整髪料をつけない
 - ・香水や整髪料は、虫を過剰に刺激したり引き寄せたりすることがあるので注意が必要です。
4. 家に入る前に虫チェック
 - ・家の中に虫を持ち込まないよう家に入る前に服や持ち物に虫がついていないかチェックし、すぐに着替えます。
5. 全身に虫よけスプレー
 - ・虫よけスプレーには虫が嫌がる成分が入っています。服や靴の上からもしっかりと吹き付けます。
 - ・ハチには、虫よけスプレーは効きません。
 - ハチやハチの巣を発見したら、静かに離れてください。

野外で活動する際には、特に注意が必要しましょう！